

平成26年度文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール（5年間指定）

2015 SGH通信

【1年生配布用】

No14 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

グローバル課題発見講演会の第2回目（7月10日）を開催しました！

3日（金）に引き続き、10日（金）も1年生322名が、グローバル化を推進している地元の8企業のグローバル化担当者等からご講演をいただきました。各企業が海外進出してきた理由や海外進出に伴う課題、また、現地の人々との信頼関係を構築してきた方法等、各社担当者が体験した生の声をお聞きすることができました。各クラス単位で講師をお招きし、2日間（計4時間）で4企業の担当者からお話を伺うという授業形式をとり、生徒達は非常に贅沢な経験をする事になりました。

8社のうち2社が、先週と講師が変わったため、お二人にも先週と同様に、「本校生徒達をグローバルリーダーに育てるために、何が必要だとお考えですか？」という質問を投げかけましたので、ここで御紹介します。

【大垣共立銀行 江口 亮 調査役】



江口様に本校でお話いただく機会は、今回が初めてでした。江口様からいただいたお言葉は以下のとおりです。

- ・「旺盛な好奇心」：色々なものに興味を持ち、実際にトライする気持ち
- ・「積極性」：海外でスムーズな仕事・暮らしをするためには、豊かな人脈が必要。自分から声をかける積極性が不可欠。
- ・「健康」：元気よく海外で過ごすには、健康第一。
- ・「言語」：英語だけでなく、現地の言葉をマスターすると、世界が一気に広がる。

【矢橋 HD(株) 朝 ルイン 主任】



朝様は、父親の仕事の都合で来日したミャンマー人で、今では日本語も何不自由なく使いこなすバイリンガルです。矢橋HDがミャンマーにオフィスを構える際に、社屋の賃貸から従業員の雇用および社員教育に至るまで、まさに、開拓者として獅子奮迅の働きをされた女性です。

- ・「海外の現状を知ることと共に、自分の興味関心がどこにあるかをしっかり見極めること」という趣旨の記述をされています。

【生徒感想】（女子生徒）

「グローバル化」というけど、日本はまだまだであると気づいた。特に、個人の意識の面。（中略）企業など一部の面では活発に海外進出し、グローバル化している日本だが、1人1人が外国人に対する心の壁を取り除かないといけないと気づいた。まずは自分の意識の変革から始めていきたい。また、我々日本人は気づいていない「日本の良さ」があることも知った。海外フィールドワークのメンバーに選ばれたら、カンボジアやベトナムの人との交流を通して、自分の心の中の壁を取り除き、日本の良さを発見してきたいと感じました。